

学力向上に向けた取組

函館市立鱒川小学校

1 課題

小中併置交のメリットを生かした指導体制の確立
 深い児童理解に基づいた指導の推進・継続

2 課題解決の具体策

小中協力体制を可能にする年間・週ごとのシフト表の作成
 日常的な理解と各種検査による児童理解と、それに基づく協力体制を含めた指導の確立

3 取り組みの概要

について
 時間割作成のための基底表作成において、小中全教員のシフトを組み入れることで小中協力体制を組む。
 職員の動向も含めた週ごとの小・中学校の教科予定を作成し、時間ごとの協力体制ができるようにする。
 複式指導をできるだけ2学年同内容の指導とする。同内容化の難しい算数や低学年の国語は学年別指導とする。
 小中とも全員公開授業により、小中を含めた授業研究を進める。
 これらの取組によって個に寄り添った指導を可能にする。

について
 全児童に、知能検査を実施して、学習方法の適性を探る。
 全児童に学力検査CRTを実施して、学力の実態を把握する。
 詳細な生徒指導交流会の実施
 6年生への全国・学力学習状況調査の結果分析から、通年の傾向を把握。

5・6年国語（同内容）

5・6年算数(単式)

4 成果と課題

詳細な児童実態把握をもとに、スモールステップ等を取り入れて、子どもに寄り添うきめ細やかな指導を行うことができた。
 児童実態や構成が毎年変わり、その年ごとに協力体制の構成を変えなければならず、次年度も再構成の必要がある。
 児童実態にもとづいた指導がカギをにぎる。いっそうの研究と授業準備のための時間確保に努める。